

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
ソーシャルアクション		講義・演習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 1 年 前期 後期 通年			6 0 回 1 2 0 時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)					
[授業の目的]					
1. ソーシャルアクションとは何かを自分の言葉で分かりやすく説明できるようになる					
2. 実際の活動を通して、ソーシャルアクションに必要な知識・技術、プロセス（過程）を身に付ける					
3. 学内はもちろん、外部の人達との関わりを通じて、視野を広げるとともに、協調性を身に付ける					
4. 社会に出た時に即戦力となれるように、自己の成長、チームの成長につなげる					
5. 継続的な活動につなげていけるように、創意工夫をできるようにする					
[授業の方法および概要]					
1. コロナ禍での継続的な実施を目指すために、今年度はクラス単位での動き（横のつながり）を中心に進めていく					
・社会福祉専攻科 2 年（SP2）⇒ アドバイザー					
・社会福祉専攻科 1 年（SP1）⇒ 実践：3 年目（上級）					
・社会福祉科 2 年（SY2）⇒ 実践：2 年目（中級）					
・社会福祉科 1 年（SY1）⇒ 実践：1 年目（初級）					
2. イフ 1 号館を拠点としての活動をメインとして計画を進める（外部への出向もOK）					
3. 各クラスでの動きを報告しあい、アドバイスしあう経験を授業内で積み重ね、4 学年の縦のつながりも形成する					
[授業の到達目標]					
1. 楽しみながら活動することができる					
2. チームメンバーや周囲の人達との協力を大切にすることができる					
3. 自主性・主体性・積極性を発揮することができる					
4. 報告・連絡・相談を確実にやり、許可が出てから動き出すことができる					
5. 無理をせず、できることから取り組むことができる					
6. 振り返り（自己評価）を大切にして、次につなげることができる					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。					
・ 考査点 (75%)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、毎回の授業の振り返りレポートを点数化する。					

・ 平常点(25%) ・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
【使用テキスト・参考文献】 ・ ソーシャル・アクション ハンドブック作成チーム編『Social Action Handbook (ソーシャル・アクション ハンドブック) -テーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア』開発教育協会、2017年
【備考】 ・ 準備や実践のスケジュール等の詳細は、グループにより異なる可能性あり。

【授業計画(内容)】	
1～2	前期オリエンテーション ～課題作成～
3～4	学科交流会～ソーシャルアクション導入～ SP1企画・運営の実践
5	課題作成発表会
6	前期ソーシャルアクション課題設定
7～8	ソーシャルアクション企画（グループワーク）
9～10	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第1クール①－1）
11～12	ソーシャルアクション実践・振り返り（第1クール①－2）
13～14	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第1クール②－1）
15～16	ソーシャルアクション実践・振り返り（第1クール②－2）
17	前期中間報告会準備
18	前期中間報告会
19～20	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第2クール①－1）
21～22	ソーシャルアクション実践・振り返り（第2クール①－2）
23～24	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第2クール②－1）
25～26	ソーシャルアクション実践・振り返り（第2クール②－2）
27～28	前期の振り返り・まとめ・報告会準備
29～30	前期報告会
31	後期オリエンテーション
32	後期ソーシャルアクション課題設定
33～34	ソーシャルアクション企画（グループワーク）
35～36	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第3クール①－1）
37～38	ソーシャルアクション実践・振り返り（第3クール①－2）
39～40	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第3クール②－1）
41～42	ソーシャルアクション実践・振り返り（第3クール②－2）
43～44	ソーシャルアクション実践・振り返り（第3クール③）
45	後期中間報告会準備

46	後期中間報告会
47～48	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第4クール①－1）
49～50	ソーシャルアクション実践・振り返り（第4クール①－2）
51～52	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第4クール②－1）
53～54	ソーシャルアクション実践・振り返り（第4クール②－2）
55～56	ソーシャルアクション実践・振り返り（第4クール③）
57～58	後期の振り返り・まとめ・報告会準備
59～60	後期報告会

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 福祉法学		[授業形態] 講義		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 2 3回 4 6時間		
[担当教員および実務経験] 星野 和幸 家庭裁判所の審判により成年後見人を受任。（2009年より継続中）					
[授業の目的] 社会福祉の仕事を行うにあたって必要とされる法学的な知識を概括的に学び、特に成年後見制度の仕組み及び実務について詳細に学ぶ。					
[授業の方法および概要] 授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標] ・ 日本国憲法の3つの基本理念と制定理由について説明することができる。 ・ 基本的人権の制度趣旨（特に自由権・社会権）を、判例を踏まえて、説明することができる。 ・ 成年後見制度の意義と活用方法について説明できる。					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 裁判傍聴レポートを期限までに提出し、その内容に自分の意見が述べられている。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献] ・ 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度 第4版』中央法規出版、2014年					
[備考] 成年後見制度及び更生保護制度に関係する専門機関でのフィールドワークを行う。					

[授業計画(内容)]	
1	日本国憲法① 基本的人権
2	日本国憲法② 地方自治
3	民法① 民法の基本原則、総則、物権・債権
4	民法③ 家族法・相続法
5	行政法① 行政法の概要、権利の救済
6	行政法② 行政法と地方自治
7	成年後見制度① 成年後見制度の概要
8	成年後見制度② 成年後見制度の後見・保佐・補助
9	成年後見制度③ 任意後見制度
10	日常生活自立支援事業・成年後見制度利用支援事業
11	権利擁護にかかわる組織・団体、専門職の役割
12	権利擁護活動の実際
13	家庭裁判所見学
14～15	授業のまとめ
16～23	東北福祉大学通信教育部スクーリング

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
障害者福祉論		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 1 年 前期 後期 通年			2 6 回 5 2 時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)					
[授業の目的]					
障害者理解のための基本的知識や考え方を学ぶことを目的とする。その上で、障害者福祉施策の展開とその特徴についての概要を理解し、実際に障害者への福祉的援助を行う上での必要な知識と方法を習得することを目的とする。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
・ 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について説明できる。 ・ 障害者福祉制度の発展過程について説明できる。 ・ 相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について説明できる。 ・ 障害とは何かを自分なりの言葉で考え、支援のための留意点を具体的に提案できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加していたことが確認できる。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕 8 障害者福祉』中央法規出版、2021年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	オリエンテーション（障害者福祉とは何か）
2	障害者福祉の理念①（ノーマライゼーションとリハビリテーション）
3	障害者福祉の理念②（ソーシャルインクルージョン）
4	障害者を取り巻く社会情勢①（1980年代まで）
5	障害者を取り巻く社会情勢②（1990年代から）
6	障害者の生活実態と国際生活機能分類
7	障害者福祉にかかわる専門職と価値・倫理
8	障害者にかかわる法体系①（グループワーク発表準備①）
9	障害者にかかわる法体系②（グループワーク発表準備②）
10	障害者にかかわる法体系③（グループワーク発表会）
11	障害者総合支援法①（法の目的・理念・対象）
12	障害者総合支援法②（障害福祉サービス：介護給付・訓練等給付）
13	障害者総合支援法③（自立支援医療・相談支援・補装具・地域生活支援事業）
14	期末考查対策（まとめ）
15	東北福祉大学通信教育部スクーリング：はじめに（学びにあたって）
16	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者福祉とは（理念を含む）①
17	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者福祉とは（理念を含む）②
18	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害種別（障害者基本法含む）①
19	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害種別（障害者基本法含む）②
20	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者福祉の基本にあるもの
21	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害の概念と理念
22	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者総合支援法（法的制度を含む）
23	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者・児の実態
24	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者施策の体系
25	東北福祉大学通信教育部スクーリング：障害者福祉サービス
26	東北福祉大学通信教育部スクーリング：まとめ及び質疑応答

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
社会福祉援助技術論 A		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 1 年 前期 後期 通年			2 3 回 4 6 時間		
[担当教員および実務経験]					
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務					
[授業の目的]					
ソーシャルワークを行う上で必要な知識・方法の修得し、相談援助過程の全体を把握する。					
[授業の方法および概要]					
授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
1. ソーシャルワークの定義、枠組み、および構成要素について説明することができる。					
2. ソーシャルワークの構造と機能について説明することができる。					
3. 相談援助の展開過程の流れ、およびそれぞれの展開過程の内容について説明することができる。					
4. アウトリーチ、契約、アセスメント、介入、モニタリング・再アセスメント・効果測定・評価、面接、記録、交渉の各技術の意義と目的について説明することができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考查点 (75%)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。					
・ 平常点 (10%)					
・ 確認試験の内容を評価する					
・ 出席点 (15%)					
・ 出席しない場合は減点していく					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ (第 3 版)』中央法規出版、2015 年					
・ 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ (第 3 版)』中央法規出版、2015 年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	相談援助とは
2	相談援助の構造と機能
3	人と環境の相互作用
4	相談援助における援助関係
5	相談援助の展開過程①
6	相談援助の展開過程②
7	確認テスト
8	相談援助のためのアウトリーチの技術
9	相談援助のための契約の技術
10	相談援助のためのアセスメントの技術
11	相談援助のための介入の技術
12	相談援助のための面接の技術
13	相談援助のための記録の技術
14	まとめ
15	期末考査
16～23	東北福祉大学通信教育部スクーリング

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 地域福祉論			[授業形態] 講義			必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉専攻科 1年 前期 後期 通年					[授業回数・時間数] 27回 54時間		
[担当教員および実務経験] 白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)							
[授業の目的] 地域福祉の基本的な考え方、理論、地域福祉の推進を図る実践方法について理解すること、地域住民や社会福祉士の取り組みなどを具体的に学び、現在の地域福祉の問題を考察しながら、問題解決の方向性を見出せるようになることを目的とする。							
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法で行い、内容の理解を促進する。							
[授業の到達目標] ・ 地域福祉の必要性を踏まえ、理念及び基本的な理論を説明することができる。 ・ 地域福祉に関する課題を把握し、解決に向けた方向性を見出すことができる。 ・ 地域福祉の展開手法や具体的な推進方法に関して説明することができる。							
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学指定の課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。							
[使用テキスト・参考文献] ・ 都築光一著『福祉ライブラリ 現代の地域福祉』建帛社、2020年							
[備考]							

[授業計画(内容)]	
1	オリエンテーション（グループワーク：地域福祉とは何か）
2	地域福祉の概念、理念、原理
3	地域福祉の重要人物
4	福祉ニーズの把握方法①（レポート3単位め）
5	福祉ニーズ把握方法②、社会資源活用法・調整・開発①（レポート3単位め）
6	社会資源活用法・調整・開発②（レポート3単位め）
7	福祉教育の目標と方法について（レポート4単位め①）
8	NPOとボランティアの関係について（レポート4単位め②）
9	コミュニティーソーシャルワークについて（レポート4単位め③）
10	民生委員制度について（レポート4単位め④）
11	模擬試験問題復習（「地域福祉の理論と方法」解説作成）
12	模擬試験問題復習（「地域福祉の理論と方法」解説発表会）
13	事例検討：災害時の相談援助演習①（地域福祉の視点から）
14	事例検討：災害時の相談援助演習①（地域福祉の視点から）
15	期末考査対策（まとめ）
16	東北福祉大学通信教育部スクーリング：地域福祉の概念と理念
17	東北福祉大学通信教育部スクーリング：地域福祉の原理と実践
18	東北福祉大学通信教育部スクーリング：外国における地域福祉のあゆみ
19	東北福祉大学通信教育部スクーリング：日本における地域福祉のあゆみ
20	東北福祉大学通信教育部スクーリング：今日における地域福祉の課題
21	東北福祉大学通信教育部スクーリング：社会福祉協議会
22	東北福祉大学通信教育部スクーリング：各種福祉関係団体等
23	東北福祉大学通信教育部スクーリング：住民による地域福祉活動
24	東北福祉大学通信教育部スクーリング：専門機関による地域福祉の取り組み
25	東北福祉大学通信教育部スクーリング：福祉教育・災害時福祉支援
26	東北福祉大学通信教育部スクーリング：福祉サービスの提供と評価
27	東北福祉大学通信教育部スクーリング：地域福祉論のまとめ

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]			[授業形態]			必修 選択	
就労支援サービス			講義				
[対象学科・学年・時期]					[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科　1年　前期 後期 通年					21回　42時間		
[担当教員および実務経験]							
圓山　里子							
障害当事者団体（NPO法人）にて職場介助者及び事務局スタッフとして勤務。障害者サポートの市委託事業において事業開設スタッフとして勤務。四年制大学の社会福祉士養成コースにおいて専任教員として勤務。							
[授業の目的]							
労働を取り巻く現状を踏まえた上で、障害者や低所得者への就労支援に関する法制度、機関・専門職の役割について学ぶ。							
[授業の方法および概要]							
社会福祉士国家試験の受験科目であることを鑑み、過去問題等に取り組みながら、学習ポイントを絞れるような授業内容とする。また、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。							
加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。							
その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。							
[授業の到達目標]							
・ 就労支援サービスの制度・体系の概要について説明することができる。 ・ 就労支援サービスの制度趣旨と問題点について説明することができる。 ・ 就労支援サービスと社会福祉の関係性について、自らの言葉で説明することができる。							
[成績評価の方法と基準]							
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。							
・ 考查点（150点） ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ その他50点（出席点20点／平常点30点） ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。							
[使用テキスト・参考文献]							
・ 福祉臨床シリーズ編集委員会編『就労支援サービス〈第4版〉社会福祉士シリーズ18』弘文堂、2020年							
[備考]							

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	働くことの意味と社会福祉士の役割
2	雇用・就労の動向
3	労働法規の概要
4	低所得者と就労支援
5	障害者福祉制度における就労支援
6	障害者雇用施策の概要と障害者雇用促進法
7	就労支援にかかわる組織および団体の役割と実際
8	就労支援に係る専門職の役割と実際
9	就労支援に関する事例①
10	就労支援に関する事例②
11	就労支援に関する事例③
12	まとめ
13	14～21 東北福祉大学通信教育部スクーリング 14 労働の意義と就労支援 15 現代の労働を取り巻く状況 16 労働に関する法制度 17 障害がある人を対象とした雇用施策 18 障害がある人を対象とした就労支援 19 低所得者を対象とした就労支援 20 就労支援におけるケアマネジメントおよび連携、ネットワーク形成の方法 21 まとめ

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]		必修 選択
社会福祉援助技術論B		講義		
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 1 年 前期 後期 通年			2 3 回 4 6 時間	
[担当教員および実務経験]				
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務				
[授業の目的]				
社会福祉援助技術論Aでの学習を踏まえて、実践モデル、種々のアプローチなどの援助技術について学ぶ。				
[授業の方法および概要]				
授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。				
[授業の到達目標]				
1. ソーシャルワークの各実践モデル（治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル）の意味と内容について説明できる。 2. 古典的アプローチ（心理社会的アプローチ、問題解決アプローチなど）の意義を確認した上で、新しいアプローチ（エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチなど）の意味と内容について説明できる。 3. メゾ・ソーシャルワーク、マクロ・ソーシャルワークに関わるグループワーク、コーディネートとネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発などについて説明できる。				
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末査を実施する。 ・ 平常点 (10%) ・ 確認試験の内容を評価する ・ 出席点 (15%) ・ 出席しない場合は減点していく				
[使用テキスト・参考文献]				
・ 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ（第3版）』中央法規出版、2015 年 ・ 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ（第3版）』中央法規出版、2015 年				
[備考]				

[授業計画(内容)]	
1	相談援助における対象の理解
2	ケースマネジメント

3	グループを利用した相談援助
4	コーディネーションとネットワーキング 相談援助における社会資源の活用・調整・開発
5	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ
6	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ
7	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ
8	確認試験
9	スーパービジョンとコンサルテーション
10	ケースカンファレンスの技術
11	相談援助における個人情報の保護 相談援助における情報通信技術の活用
12	事例研究・事例分析
13	相談援助の実際
14	まとめ
15	期末考査
16～23	東北福祉大学通信教育部スクーリング

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
ソーシャルアクション		講義・演習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 2 年 前期 後期 通年			3 0 回 6 0 時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)					
[授業の目的]					
1. ソーシャルアクションとは何かを自分の言葉で分かりやすく説明できるようになる					
2. 実際の活動を通して、ソーシャルアクションに必要な知識・技術、プロセス（過程）を身に付ける					
3. 学内はもちろん、外部の人達との関わりを通じて、視野を広げるとともに、協調性を身に付ける					
4. 社会に出た時に即戦力となれるように、自己の成長、チームの成長につなげる					
5. 継続的な活動につなげていけるように、創意工夫をできるようにする					
[授業の方法および概要]					
1. コロナ禍での継続的な実施を目指すために、今年度はクラス単位での動き（横のつながり）を中心に進めていく					
・社会福祉専攻科 2 年（SP2）⇒ アドバイザー					
・社会福祉専攻科 1 年（SP1）⇒ 実践：3 年目（上級）					
・社会福祉科 2 年（SY2）⇒ 実践：2 年目（中級）					
・社会福祉科 1 年（SY1）⇒ 実践：1 年目（初級）					
2. イフ 1 号館を拠点としての活動をメインとして計画を進める（外部への出向もOK）					
3. 各クラスでの動きを報告しあい、アドバイスしあう経験を授業内で積み重ね、4 学年の縦のつながりも形成する					
[授業の到達目標]					
1. 楽しみながら活動することができる					
2. チームメンバーや周囲の人達との協力を大切にすることができる					
3. 自主性・主体性・積極性を発揮することができる					
4. 報告・連絡・相談を確実にし、許可が出てから動き出すことができる					
5. 無理をせず、できることから取り組むことができる					
6. 振り返り（自己評価）を大切にして、次につなげることができる					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。					
・ 考査点(75%)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、毎回の授業の振り返りレポートを点数化する。					

・ 平常点(25%) ・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
[使用テキスト・参考文献] ・ ソーシャル・アクション ハンドブック作成チーム編『Social Action Handbook (ソーシャル・アクション ハンドブック) -テーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア』開発教育協会、2017年
[備考] ・ 準備や実践のスケジュール等の詳細は、グループにより異なる可能性あり。

[授業計画(内容)]	
1～2	前期オリエンテーション ～課題作成～
3～4	学科交流会～ソーシャルアクション導入～ SP1企画・運営の実践
5	課題作成発表会
6	前期ソーシャルアクション課題設定
7～8	ソーシャルアクション企画（グループワーク）
9～10	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第1クール①－1）
11～12	ソーシャルアクション実践・振り返り（第1クール①－2）
13～14	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第1クール②－1）
15～16	ソーシャルアクション実践・振り返り（第1クール②－2）
17	前期中間報告会準備
18	前期中間報告会
19～20	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第2クール①－1）
21～22	ソーシャルアクション実践・振り返り（第2クール①－2）
23～24	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第2クール②－1）
25～26	ソーシャルアクション実践・振り返り（第2クール②－2）
27～28	前期の振り返り・まとめ・報告会準備
29～30	前期報告会

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
医学一般		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年			15回 30時間		
[担当教員および実務経験]					
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務					
[授業の目的]					
社会福祉の仕事を行うにあたって必要とされる医療の基礎的な知識を概括的に学ぶ。具体的には、基本的な人体の構造と機能を理解し、直面する頻度の高い障害や疾病について医学的に理解する。					
[授業の方法および概要]					
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
・人体の主な器官の生理的機能について説明できる。 ・加齢に伴う生理的機能の低下と、高齢者に多い疾患（慢性腎臓病、高血圧、誤嚥性肺炎など）との関連について説明できる。 ・免疫（特に液性免疫）や自律神経による身体の機能調節について説明できる。 ・脳の機能と関連させて考え、認知症の中核症状と主な原因疾患について説明できる。 ・生活習慣病および、生活習慣との関連について説明できる。 ・主な生活習慣病について説明できる。 ・生活習慣病をメタボリック症候群や日本人の死因と関連させて説明できる。 ・介護保険の特定疾病について説明できる。 ・高齢者に多い神経疾患と精神疾患の特徴を説明できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。					
・考查点(75%) ・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・平常点(25%) ・事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版、2015年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	人の成長・発達①
2	人の成長・発達②

3	心身機能と身体構造の概要①
4	心身機能と身体構造の概要②
5	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要①
6	健康の捉え方①
7	健康の捉え方②
8	疾病と障害の概要①
9	疾病と障害の概要②
10	疾病と障害の概要③
11	疾病と障害の概要④
12	疾病と障害の概要⑤
13	リハビリテーションの概要①
14	リハビリテーションの概要②
15	期末試験

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：人体の構造と機能及び疾病）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		9回 18時間	
[担当教員および実務経験]			
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「人体の構造と機能及び疾病」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・身体の成長・発達について理解できる。 ・加齢に伴う生理機能の変化について理解できる。 ・人体の構造と各器官の機能（血液・呼吸器・消化器・循環器・支持運動器官）について理解できる。 ・ICIDHからICFへの変遷について理解できる。 ・ICFにおける心身機能と身体構造、活動、参加の概念を説明できる。 ・ICFにおける環境因子と個人因子の概念を説明できる。 ・WHOの健康の概念について説明できる。 ・アルマ・アタ宣言について説明できる。 ・オタワ憲章について説明できる。 ・疾病の概要（生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧、糖尿病、呼吸器疾患、消化器・消化管疾患、腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、感染症、神経疾患、先天性疾患）について理解できる。 ・高齢者に多い疾患の特徴について説明できる。 ・障害（視覚・聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害、高次機能障害）の特徴について理解できる。 ・認知症類型について説明できる。 ・精神障害（統合失調症、気分障害、摂食障害）の特徴について理解できる。 ・ICD－10とDSM－5の違いと特徴を説明できる。 ・リハビリテーションの定義を説明でき、範囲を理解できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・査点(75%) ・到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・平常点(25%) ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精			

神保健福祉士国家試験受験ワークブック 2023 [共通科目編]』中央法規出版、2022 年
・医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説 2023』
メディックメディア、2022 年

[備考]

[授業計画(内容)]

1	人の成長・発達
2	人体の構造と各器官の機能① (支持運動器官、血液、循環器系器官、泌尿器、呼吸器)
3	人体の構造と各器官の機能② (消化器、神経器官、内分泌器官、感覚器、皮膚)
4	国際生活機能分類 (I C F) と健康の概念
5	疾病の概要① (生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧、糖尿病)
6	疾病の概要② (内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器・消化管疾患、血液疾患と膠原病、 腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨・関節疾患)
7	疾病の概要③ (目・耳の疾患、感染症、神経疾患と難病)
8	疾病の概要④ (先天性疾患、高齢者に多い疾患) 障害の概要① (視覚・聴覚障害、高次脳機能障害、内部障害、知的障害、発達障害、認知症 類型)
9	障害の概要② (精神障害) 精神疾患の診断・統計マニュアル (D S M) の概要 リハビリテーションの概要

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：心理学理論と心理的支援）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		13回 26時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「心理学理論と心理的支援」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・感情、欲求、動機づけについて説明できる。 ・適応と不適応の違いを説明できる。 ・防衛機制を12種類列挙できる。 ・ストレスについて説明できる。 ・人格検査を3種類列挙し、それぞれ具体例を挙げて説明できる。 ・知能検査を2種類列挙し、それぞれ説明できる。 ・発達検査、適性検査について説明できる。 ・心理療法（精神分析、行動療法、遊戯療法、芸術療法、動作法、ブリーフセラピー、家族療法、心理劇、回想法、森田療法、内観療法、自律訓練法、漸進的筋弛緩法、セラピューティック・アクティビティ）について説明できる。 ・エリクソンとピアジェの発達段階・発達課題について説明できる。 ・記憶の6種類、感覚の7種類を列挙し、高齢者の記憶と感覚の特徴を説明できる。 ・人格・性格・気質の違いを説明できる。 ・知覚・感覚・認知の違いを説明できる。 ・集団（凝集性、規範、極性化、思考）について説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・考査点(75%)			

・到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・平常点(25%) ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
[使用テキスト・参考文献] ・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2023〔共通科目編〕』中央法規出版、2022年 ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『社会福祉士国家試験過去問解説集2023』中央法規出版、2022年
[備考]

[授業計画(内容)]	
1	情緒、情動、欲求、動機づけ
2	適応、ストレス
3	心理検査、知能検査
4	カウンセリング、心理療法①
5	心理療法②
6	発達概念
7	高齢者の発達心理、感覚、記憶、思考
8	人格、性格
9	知覚、認知、学習
10	心と脳、集団、人と環境
11	問題演習（過去問題①）
12	問題演習（過去問題②）
13	問題演習（模擬問題）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：地域福祉の理論と方法）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		14回 28時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「地域福祉の理論と方法」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 地域福祉とは何かを説明できる。 ・ 地域福祉論の重要人物（岡村重夫、右田紀久恵、三浦文夫、永田幹夫、牧里毎治、岡本栄一）について説明できる。 ・ ノーマライゼーションとソーシャル・インクルージョン、コミュニティ・オーガニゼーション、地域福祉の役割について説明できる。 ・ 日本、イギリス、アメリカの地域福祉政策の主な展開を説明できる。 ・ 地域福祉計画と地域福祉活動計画の違いを説明できる。 ・ 社会福祉協議会の概要を説明できる。 ・ 社会福祉法人について説明できる。 ・ 共同募金の概要を説明できる。 ・ ボランティアセンターと災害ボランティアセンターについて説明できる。 ・ 民生委員制度の概要を説明できる。 ・ 地域ネットワーク、ソーシャルサポートネットワークについて説明できる。 ・ 社会資源について説明できる。 ・ 福祉ニーズの把握方法を列挙できる。 ・ 地域包括ケアシステムについて説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			

・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
[使用テキスト・参考文献] ・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2023 [共通科目編]』中央法規出版、2022年 ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『社会福祉士国家試験過去問解説集2023』中央法規出版、2022年
[備考]

[授業計画(内容)]	
1	地域福祉の概念
2	地域福祉の範囲
3	地域福祉の理念、地域福祉の発展過程①
4	地域福祉の発展過程②、地域福祉の主体
5	地方自治体、地域福祉計画
6	社会福祉協議会
7	社会福祉法人、NPO法人、住民参加型在宅福祉サービス
8	企業・ビジネス等、共同募金
9	民生委員・児童委員
10	専門職や地域住民の役割と実際、地域福祉の推進方法①
11	地域福祉の推進方法②、ボランティア活動・組織
12	問題演習（過去問題①）
13	問題演習（過去問題②）
14	問題演習（模擬問題）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：障害者に対する支援と障害者自立支援制度）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		18回 36時間	
[担当教員および実務経験]			
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 障害者の生活実態の傾向を説明できる。 ・ 障害者福祉制度の発展過程を説明できる。 ・ 障害者福祉関連法律（障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、児童福祉法、障害者虐待防止法、医療観察法、バリアフリー新法、障害者雇用促進法）の概要を説明できる。 ・ 障害者総合支援法の概要（目的、対象、サービス利用の仕組みとプロセス、自立支援給付、地域生活支援事業等）を説明できる。 ・ 障害者総合支援法におけるそれぞれの組織及び団体の役割を説明できる。 ・ 障害者総合支援法におけるそれぞれの専門職の役割を説明できる。 ・ 障害者総合支援法における多職種連携（関連職種の理解）やネットワーキングの手法を説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			

〔使用テキスト・参考文献〕 ・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2023〔共通科目編〕』中央法規出版、2022年 ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『社会福祉士国家試験過去問解説集2023』中央法規出版、2022年
〔備考〕

〔授業計画(内容)〕	
1	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要
2	障害者福祉制度の発展過程
3	障害者基本法の概要
4	身体障害者福祉法の概要、知的障害者福祉法の概要
5	精神保健福祉法の概要、児童福祉法の概要
6	障害者虐待防止法の概要、医療観察法の概要
7	バリアフリー新法の概要、障害者雇用促進法の概要
8	障害者総合支援法の概要①（目的・対象・仕組みとプロセス）
9	障害者総合支援法の概要②（障害福祉サービス：介護給付）
10	障害者総合支援法の概要③（障害福祉サービス：訓練等給付）
11	障害者総合支援法の概要④（自立支援医療・補装具・住宅改修）
12	障害者総合支援法の概要⑤（地域生活支援事業・相談支援事業所）
13	障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際
14	障害者総合支援法における専門職の役割と実際
15	障害者総合支援法における多職種連携、ネットワーキングと実際
16	問題演習（過去問題①）
17	問題演習（過去問題②）
18	問題演習（模擬問題）

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：保健医療サービス）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		6回 12時間	
[担当教員および実務経験]			
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「保健医療サービス」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・診療報酬制度の全体像について理解できる。 ・点数表と薬価基準の仕組みを理解できる。 ・在宅医療、終末期医療を支援する診療報酬制度について理解できる。 ・医療提供施設の定義について説明できる。 ・保健医療対策の概要について理解できる。 ・医療システムの概要（インフォームドコンセント、アカウントビリティ、セカンドオピニオン、地域連携クリティカルパス）について説明できる。 ・医師の役割について説明できる。 ・保健師、看護師等の役割について説明できる。 ・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・救急救命士等の役割について説明できる。 ・医療ソーシャルワーカーの役割について理解できる。 ・医療ソーシャルワーカーの業務について説明できる。 ・保健医療サービス関係者及び地域の社会資源との連携について理解できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・ 査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(10%) 授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。 ・ 出欠点(15%) 欠席する毎に点数を引いていく。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2023 [共通科目編]』中央法規出版、2022年 ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説2023』メディックメディア、2022年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
1	診療報酬制度の概要
2	保健医療サービスの概要①（医療施設の概要）
3	保健医療サービスの概要②（保健医療対策の概要・医療システムの概要）
4	保健医療サービスにおける専門職の役割と実際① （医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、救急救命士等の役割）
5	保健医療サービスにおける専門職の役割と実際② （医療ソーシャルワーカーの役割）
6	保健医療サービス関係者との連携と実際

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	
社会福祉士国家試験対策（共通科目：権利擁護と成年後見制度）		講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		10回 20時間	
[担当教員および実務経験]			
星野 和幸 (専門職後見人として成年後見を受任)			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「権利擁護と成年後見制度」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 権利擁護に関わる法律問題を説明できる ・ 日本国憲法に規定された基本的人権（特に自由権と社会権）の概要を説明できる ・ 民法に規定された物権、相続、家族について説明できる ・ 行政法による権利の救済を説明できる ・ 成年後見制度の概要を説明できる ・ 任意後見制度の概要を説明できる ・ 日常生活自立支援事業及び成年後見制度利用援助事業の概要を説明できる ・ 権利擁護に係る組織、団体の役割を説明できる ・ 認知症者や被虐待者に対する権利擁護活動の実際を説明できる			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。			
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			

[使用テキスト・参考文献]

- ・ 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2023 [共通科目編]』中央法規出版、2022年
- ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク 社会福祉士国家試験問題解説2023』メディックメディア、2022年

[備考]

[授業計画(内容)]

1	相談援助活動と法との関わり① 権利擁護に関わる法律問題、日本国憲法の理解
2	相談援助活動と法との関わり② 民法の理解
3	相談援助活動と法との関わり③ 行政法の理解
4	成年後見制度① 成年後見制度の概要、成年後見人等の役割
5	成年後見制度② 任意後見制度、民法における親権や扶養の概要、最近の動向
6	日常生活自立支援事業、成年後見制度利用援助事業 日常生活自立支援事業、成年後見制度利用援助事業
7	権利擁護に係る組織、団体の役割 家庭裁判所、法務局、市町村、弁護士、司法書士、医師、公証人
8	権利擁護活動の実際 認知症者、被虐待者
9	授業内容のまとめ①
10	授業内容のまとめ②

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]	必修 選択
社会福祉士国家試験対策（専門科目：高齢者に対する支援と介護保険制度）		講義	
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
社会福祉専攻科 2年 前期 後期 通年		17回 34時間	
[担当教員および実務経験]			
渡辺 康子 （病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務）			
[授業の目的]			
社会福祉士国家試験の出題基準に規定された科目である「高齢者に対する支援と介護保険制度」について、出題基準をベースにしながら、過去問の出題傾向を踏まえ、国家試験に出題される可能性のある項目について体系的に学び、国家試験合格に貢献できるだけの正答率の獲得を目指す。			
[授業の方法および概要]			
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・ 高齢者の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について説明できる。 ・ 高齢者福祉制度の発展過程を説明できる。 ・ 介護の概念や対象、理念などについて説明できる。 ・ 介護過程における介護の技法を説明できる。 ・ 介護予防の基本的な考え方を説明できる。 ・ 終末期ケアのあり方を説明できる。 ・ 介護保険制度の概要を説明できる。 ・ 高齢者の福祉・介護に係る法制度（特に高齢者虐待防止法）の概要を説明できる。			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。			
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を継続的に測るために、原則として月に1度ずつ、全科目共通の筆記試験を4回実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
・ 社会福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会『社会福祉士国家試験受験ワークブック 2023 [専門科目編]』中央法規出版、2022年 ・ 医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク 社会福祉士国家試験問題解説 2023』メディックメディア、2022年			
[備考]			

【授業計画(内容)】	
1	認知症ケア
2	介護の概念や対象、介護予防、介護過程①
3	介護過程②
4	終末期ケア、介護と住環境、介護報酬

5	地域包括支援センターの役割と実際
6	高齢者虐待防止法、バリアフリー新法、高齢者住まい法
7	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要①
8	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要②
9	高齢者福祉制度の発展過程
10	老人福祉法
11	介護保険法、介護保険制度の概要①（行政の役割分担）
12	介護保険制度の概要②（保険者・被保険者・要介護認定）
13	介護保険制度の概要③（保険給付：介護給付、予防給付①）
14	介護保険制度の外相④（保険給付：介護給付、予防給付②）
15	介護保険法における組織・団体、専門職の役割と実際
16～17	問題演習（過去問題・模擬問題）